

知床の窓から見えるもの

2019年3月22日（金）

はじめまして。2018年7月、大阪からやってまいりました看護師です。看護師になった頃、まさか自分が大阪を離れて働く日が来るとは夢にも思ってみませんでした。縁あって今、羅臼で生活しています。（実はまだ、自分が北海道に住んでいるという実感はありませんが…）

先日、海上保安庁の砕氷型巡視船「てしお」の体験航海に参加させていただきました。現在、日本に2隻しかない砕氷型巡視船の一つらしく、70名ほどの招待客を乗せ、快晴の中、羅臼港を出発しました。羅臼港周辺には流氷はなく、一瞬、不安がよぎりましたが、沖合6kmあたりで流氷たちが待っていてくれました！一面に広がる氷の海の中、船はどんどん進んでいき、氷の存在感、氷と海水が作り出す青色の美しさに魅せられました。今にも手が届きそうなところを気持ちよさそうに飛ぶ鳥たちの姿が見られ、痛いくらいの寒さも忘れ、やや興奮気味に写真を撮りパシャパシャ。（さすが、羅臼。こんな近くに“ワシ”たちが飛んでるなんて、ホンマすごいなあ…）なんて思っていたところ、地元出身の方より、「“ゴメ”が好きなんですか？」と…ん？！どうやら私が、天然記念物のワシだと思って一生懸命、撮っていた鳥たちは、ゴメ（＝カモメ）の子供だったようで…やっぱり地元の方々に、もっともっといろいろと教えてもらわねば…と痛感いたしました。いやいや、もちろんゴメの画像も、大阪人にとっては十分、感動できる思い出になりましたよ。

世界自然遺産である羅臼の自然は、時に厳しくもありますが、その美しさに触れると、頭は空っぽ、心が震える…といった感覚になります。この体験航海中も、海風を全身で感じ、すぐそこにある流氷や鳥たち、そして遠くにそびえたつ真っ白な羅臼岳を眺めながら、『こういう土地と出会えた自分は、本当に幸せ者だなー』なんてしみじみ思いました。ふと、看護学生の頃、看護の構成要素である人、健康、環境、看護に関するレポートを書いたことを思い出しました。そして、『羅臼の自然を知った今、自分の看護観はどんな風に変化したのか、いっぺん、確かめとかなアカンよなあ…』などと、少し真面目なことも考えたりしながら、あっという間に一時間半の航海が終わりました。

今回、このような貴重な体験の場を与您いただき、ありがとうございました。今後もますます、羅臼の自然を満喫できればと思っています。（もちろん、本業も頑張ります！）

